

郷土の偉人

二本木連合町内会の地域から出られた著名人を紹介します。(敬称略)

谷本 歩実 (たにもと あゆみ、1981年8月4日～)

安城市美園町出身の柔道家、柔道指導者。段位は四段。身長158cm。血液型はA型。現在はコマツに所属してコーチを務めている。2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会理事。

2004年アテネオリンピック、2008年北京オリンピック柔道女子63kg級金メダル獲得者。実妹の谷本育実もコマツに所属する柔道家である。夫はスノーボーダーの鶴岡剣太郎



高校までの経歴 (ウイキペディア百科辞典から)

柔道は9歳の時に安城柔道教室(安城柔道クラブ)で始めた。同時に陸上競技にも取り組んでいて、走幅跳では愛知県の大会で優勝したこともある。中学に入学したらどちらの道に進もうか思案していたところ、父親に柔道の方が向いていると言われたことで、中学入学直前にはバルセロナオリンピック78kg級金メダリストである吉田秀彦を輩出したことで知られる大石道場に移籍して、週2回の稽古を積むことになった。入学した篠目中学には柔道部が無かったため陸上部に所属していて、砲丸投げでは安城市の大会で優勝したこともあった。ちなみに、50mは6秒5で走ったと述べているが、女子50mの日本記録が6秒47(室内記録)であることを考えると俄かには信じがたい数字と言える。全国中学校柔道大会には1年と2年の時に56kg級、3年の時には52kg級で出場するが、いずれも予選リーグで敗れて決勝トーナメントには進めなかった。

続いて桜丘高校に進むものの、柔道部の練習は1時間半と少なく物足りなさを感じていたために、練習後は自主トレーニングを積んでいた。全国高校選手権63kg級では1年の時に5位、2年の時には準決勝で埼玉栄高校の早田英美に払腰で敗れるが3位となった。3年の時には全日本ジュニアで3位となると、全国女子体重別では準々決勝で筑波大学の一見理沙に大外刈で敗れるも、敗者復活戦を勝ち上がりこちらも3位となった。

以降 詳細は ウイキペディア百科事典 参照

エピソード

- 常に一本を取りに行く姿勢と、豪快な投げ技が身上で、とりわけ一本背負投や袖釣込腰を得意技としているため、女三四郎の異名を持つ。
- 子供の時は妹の育実と柔道衣装で電車に乗りながら道場に通っていた。
- 筑波大学を卒業後、コマツ柔道部に所属しながらコマツ社員として週に2回溜池の本社に出勤していた。
- 2008年ベストスマイル・オブ・ザ・イヤーを受賞。
- パスタは何十種類もつくれるという。

高野 鎮雄 (たかの しずお、1923年8月18日 - 1992年1月19日)

安城の偉人 ⑤

～VHSを世界規格に～

高野鎮雄は大正12(1923)年8月、碧海郡依佐美村(現安城市二本木町)に生まれました。

旧制刈谷中学校(現刈谷高校)、浜松高等工業学校(現静岡大学工学部)を経て、昭和21(1946)年に日本ビクター(現JVCケンウッド)に入社します。昭和30年代後半から業務用VTRの製造に携わるようになります。

昭和49年から50年にかけて、家電各社では、家庭用VTRをコンセプトにした

高野鎮雄は平成4年、72歳でこの世を去りますが、後にテレビ番組で「VHSの世界標準規格化」が取り上げられ、大きな反響を呼びます。さらに映画化もされ、高野の業績は全国に知られるようになりました。

高野は試作機の技術を他社へ開示し、開発の協力を求めました。その結果、日立や三菱電機、シャープなどが技術協力に応じ、VHSの第四次試作機が完成しました。松下電器相談役の松下幸之助からは「ベータマックスは100点満点、VHSは150点」と評価され、昭和51年9月に発売されました。

一方、ソニーからはベータマックスが発表されましたが、こちらは東芝や三洋電機などが支持し、ビデオの規格をめぐる日本のメーカーはVHSとベータマックスに二分され、規格統一をめぐる激しく競うことになりました。高野は

さまざまな規格が発表されました。高野を中心に日本ビクターは新たな規格、VHSの開発を始めます。実用性・量産性を重視し、最長2時間の録画時間を基本としていました。

高野は試作機の技術を他社へ開示し、開発の協力を求めました。その結果、日立や三菱電機、シャープなどが技術協力に応じ、VHSの第四次試作機が完成しました。松下電器相談役の松下幸之助からは「ベータマックスは100点満点、VHSは150点」と評価され、昭和51年9月に発売されました。

国内のみならず、欧州各国の主要メーカーとも提携し、販路を拡大させました。このことが功を奏し、次第にVHSが優勢となり、VHSは日本初の世界標準規格となりました。

高野は平成4年、72歳でこの世を去りますが、後にテレビ番組で「VHSの世界標準規格化」が取り上げられ、大きな反響を呼びます。さらに映画化もされ、高野の業績は全国に知られるようになりました。

高野が手がけた世界初のVHSビデオデッキ

* (説明) 事業部長だった頃に [VHS](#) の開発を指揮し、「VHSの父」「ミスターVHS」と呼ばれる。1986年に副社長に就任した。

VHS開発の経緯はNHKのドキュメンタリー番組「プロジェクトX～挑戦者たち～」で2000年4月4日に放送された「窓際族が世界規格を作った～VHS・執念の逆転劇～」で紹介され、大きな反響を呼んだ。また、この記録を元に製作された、西田敏行の主演による映画「陽はまた昇る」が2002年に公開された。